

教育課程研究指定校事業実施計画書（平成 28 年度）
 — 研究課題 2 中学校 —

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道
-------------	---	------------	-----

公立 ・ 私立 ・ 国立 (○で囲む)

1 研究指定校の概要

ふりがな 学校名	ほっかいどうきょういくだいがくふぞくあさひかわ 北海道教育大学附属旭川中学校				ふりがな 校長氏名	あんどうひでとし 安藤秀俊
所在地	〒070-0874 北海道旭川市春光 4 条 2 丁目 1 - 1 電話 0166-53-2751 FAX 0166-53-2861 e-mail asa-fuchu@j.hokkyodai.ac.jp					
(H28.4.1 見込)	1 年	2 年	3 年	計	(H28.4.1 見込。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む)	
学級数	3	3	3	9	教員数 16 名	
生徒数	111	108	112	331	[調査研究にかかわる教科等の教員数] 1 名	
特記事項						

2 研究主題等

教科等名	技術・家庭（技術分野）	教科課題番号等	①
学校における研究主題	問題解決的な学習を通して、「生活を工夫し創造する能力」の育成を目指した 3 年間の系統的な指導計画の作成及び実践と評価		

3 平成 27 年度の成果と課題

<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 3 年間を見通した指導計画を作成し、運用を始めることができた。特に学習内容を明確にするため、日本産業技術教育学会の提案する「21 世紀の技術教育」に例示されている学習内容を基にしたこと、問題解決的な学習を進めたこと、マッピングを活用したことなどによって、一定程度「生活を工夫し創造する能力」の育成を図ることができた。 ○ 「生活を工夫し創造する能力」の学習評価について、問題を解決するための設計や計画に既習事項をどれだけ生かすことができるかという指標を立てることにより、評価に一定の客観性をもたせることができた。 ○ 生物育成に関する技術において問題解決的な学習を進めることにより、85%の生徒が一つ一つの課題を解決し、自らの育成計画に生かすことができたことは一定の成果であると考えている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各内容を指導する学年を変えたために、実践できない内容もあったことから 2 年次研究の中で検証していく必要がある。 ・ 動力の伝達について、設定したコースを完全には走破できない生徒が多く見られた。使用した教材の特徴と設定した課題との不整合が影響したためと思われる。題材に必要な機能といった視点で教材について検討が必要である。 ・ 動力の伝達については、自動車など生徒が実生活であまり考えない問題を扱うことになることが多いため、自分の身の回りの問題を解決できる作品の設計などについて考えさせることも検討する必要がある。

4 平成28年度の研究計画

(1) 本年度の研究の重点等

- ・昨年度実施できなかった内容も含めて、目標とする工夫し創造する能力について、その難易度に一定の目盛り（選択、管理・運用、改良、応用など）を設けることにより、その難易度に従って各学年の題材配置をさらに改善する。
- ・動力伝達については、設定した題材との整合性の視点で教材を再検討し、課題の達成度の変化を把握する。
- ・さらに、エネルギー変換における電気回路の設計・製作に関して、動力伝達と同様に設定した題材との整合性に加えて、カリキュラムマネジメントの視点から他教科との連携の視点から教材を検討し、その有用性を確認する。
- ・すべての内容における「工夫し創造する能力」について、昨年度と同様の方法で学習評価を行い、この方法の客観性を確認する、また、先行研究等を参考に、工夫し創造する能力の調査問題を作成し、本研究の成果を確認する。

(2) 研究計画

実施時期	研究内容、研究方法、成果の公開等	期待される成果等
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3年間を見通した題材配当表を基にして、さらに工夫創造に関する難易度の目盛りを設定し、指導計画を改善する。 ○ 「工夫し創造する能力」の学習評価 ○ 2学年におけるエネルギー変換に関する技術（動力）について、題材との整合性の視点から教材を検討し、実践を行う。 ○ 電気回路の設計・製作用の教材について、題材との整合性及び他教科との連携の視点から検討した上で、製造元と話し合いをもち、可能な範囲での改良を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習評価の客観性について確認する。 ・ 昨年度の2年生の工夫し創造する能力の評価結果と比較することで、題材との整合性という視点での教材検討の有用性を確認する。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学年におけるエネルギー変換に関する技術（電気回路）について、題材との整合性及び他教科との連携の視点で検討した教材を用いて実践を行う。 ○ 全日本技術家庭科研究大会旭川大会 ○ 工夫し創造する能力の調査問題の検討と実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年生時の「動力伝達」に関する工夫し創造する能力の評価結果と比較することで、題材との整合性及び他教科との連携の視点での教材検討の有用性を確認する。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究成果の発表 ○ 研究成果のまとめ 	

5 研究のまとめの見通し

本研究については、北海道技術・家庭科研究会の研究部会の中で交流・普及を進めていく、また、平成28年度の全日本中学校技術・家庭科研究大会全国大会においてその成果を発表する予定である。